

4月になりました。

もう既に4月も半分終わってしまっています。

この所HPの更新が遅く一部の方・・・ほんの一部ですが・・・ご迷惑おかけいたしております。HPの更新については、依頼先の専門職もいるのでバナーなどは「サクッと」新しくなっています。が、私が自分でやらなければいけない所も有ります。当然、私は更新期限日程を気にしているのであります・・・が、至って進まない時が多々あります。

「あっ！バナー変わってるヤバイ！早くやらなきゃ」と思いながら時間が過ぎ、
「リミット！期限だ！！！」となり、その慌てた時期を逃すと「一気にやる気が失せ」
「もう遅いよな！」を言い訳に（実は少しホッとしつつ）その事態を忘れようとして
最後には「やってもやらなくても別にいいじゃん」と自分に言い含めます。



20代30代を無我夢中で、過ごし気がついたら、40代を迎えていました。

「へ？もう人生半分おわっちゃったの？」正直ショックでした。

「鏡に映る自分」と「問いかけている自分」と全然違う。「なんだろう？この感じ??」

「おかしいよ！でもどっちが？おかしいの？」モヤモヤを通り越して、ちょっとパニック！

そんな自身の生き方に若干の絶望感や漠然とした不安を感じていた40代のある日、長女の進路面談に同席しました。大学進学を決めていたので、どこの大学に行くか？という事です。事前に本人が提出した志望先と成績データとのすり合わせによる選択が担任と行われているのを横目で見ていた、その時、自分の18歳のある光景が思い出されました。

夕陽が差し込む教室で「母と私とゴータ（心の中での先生の名称）」が向かい合っています。付属校の進路指導は成績によって学部と学科を振分けられるので、機会的な作業で終わるのが常です。が、志望表が未提出だった私は夕方一番最後になりました。彼らは未提出理由を私に聞くまでもなく、母はゴータに「そうですね！」「はい！ありがとうございます」を繰り返していました。それを聞いていた時突然「私嫌です。外部受験します」と叫びました。母はびっくり、でもゴータは落ち着き払ってこう言いました

「もう10月だぞ！来年3月卒業だぞ・・・」 私はその一言で瞬く間に学科を選択し無事、普通の大学生になりそして、40代を迎え娘の進路面談に同席していました。

娘と担任のやりとりを耳にしつつも、自分の面談日のあの光景と「もう遅い」という言葉がグルグル頭の中を回って、私は思いました「ヤバイもう半分過ぎてる。時間がない！」

「今やらなきゃ ダメ！遅いかもしれないけど・・・やんなきゃダメ」と・・・

あの日の想いと今の自分の不安を抱えながら、娘の進路より自分の進路決断をしました

それから20年弱またさらに残り時間が短くなっているに先延ばしにする自分がいます。成長していない自分に今日は本当に嫌気がさしています。そして「遅いかもしれないけど・・・でもやれないわけじゃない。やらない理由にはならない」と

そんな気持ちを急に抱いて、多少困惑しつつ

4月雑感としてこの様な事をUP依頼しようとしています。

自分を奮い立たせる何かを感じた還暦の4月の少し肌寒い雨の日です。

